

木岐漁協の小型定置網にタコブネが入網

マリンサイエンスゾーン推進幹兼水産研究課長
上田 幸男

Keyword ; タコブネ , フネダコ , 黒潮大蛇行 , 南方系 , 小型定置網

皆様 , タコブネ *Argonauta hians* (Lightfoot , 1786) を御存知でしょうか。2018 年 10 月 19 日と 2018 年 10 月 29 日に各 1 個体が徳島県海部郡美波町木岐地先 (由岐と木岐の境界付近 ; 田井ノ浜方面) に敷設された木岐漁協の中崎作博さんの小型定置網に生きた状態で入網しました。木岐では初めての入網であったことから木岐漁協の職員さんから水産研究課に「珍しいことか?」メールで写真を添えて問い合わせがありました(写真 1, 2)。現物の確認ができておらず , 木岐漁協から御提供頂いた写真からはアオイガイ *Argonauta argo* Linnaeus , 1758 かタコブネか不明でしたが , 2019 年 1 月 18 日に木岐漁協で貝殻を確認させていただきました(写真 3)。



写真 1 . 2018年10月19日に木岐漁協の定置網に入網した生きた有耳型タコブネ(写真左)と貝殻内部にみられる卵塊と貝を外した体(右写真)(木岐漁協撮影)。

日本近海産貝類図鑑(奥谷 2000)からアオイガイが「放射肋は細かく竜骨との接点は鋭く尖る」のに対し , タコブネは「放射肋粗く(間隔はやや幅広で少ない) , 竜骨との接点は丸みがある」との記載に基づきアオイガイ科のタコブネと同定しました。2017 年に私が日本海の島根県沖で採集したアオイガイと比較してみても両種の形状と大きさの違いは明瞭でした(写真 3)。また , タコブ

ネには殻の開口部の両後側縁が耳状に突出しているか否かで有耳型，中間型，無耳型に分けられていますが(西村 1969，当時の標準和名はフネダコ，*Argonauta hians* Solander，1786)，今回採集されたタコブネは有耳型でした。



写真2． 2018年10月29日に木岐漁協の定置網に入網したタコブネの貝を外した体。

木岐漁協には私の知る限りでは本県では初めての事例だとお答えしましたが，その後，2018年11月7日にも木岐漁協より南に位置する海陽町の鞆浦漁協でも水揚げされたことが同漁協のブログ (<https://ameblo.jp/tomouragyokyou/>) に記されています。同漁協によると初めて1個体が水揚げされたそうです。また，2018年11月16日のむろと廃校水族館のTwitter (https://twitter.com/murosui_kochi) にも定置網で採集されたことが記されています。

そこで木岐漁協の了解を得てこの事象をタコブネの写真とともに特異事項として水研だよりに記録するとともに入網要因を考察することにしました。

タコブネはフネダコとも呼ばれ，8本の腕と吸盤を持つタコの仲間で，メスのみが卵塊を守るための貝殻を自ら第1腕から分泌して形成します。そもそも熱帯・亜熱帯性あるいは外洋性暖流性のタコで(西村 1969)，本邦太平洋，日本海側の暖海域に海流によって輸送されてきます。水産業上の重要種でないために，生きた状態での採集例は少なく，駿河湾(久保田，宮下 1973)や島根半島(櫻井，河野 2010)での報告がみられる程度です。

今回の採集個体を写真で見ますとタコの胴長4cm，全長14cm程度，貝殻の大きさ(長径)は7cm程度です。貝殻内には黄色い卵塊が観察できることから

メスの親ダコと考えられます。

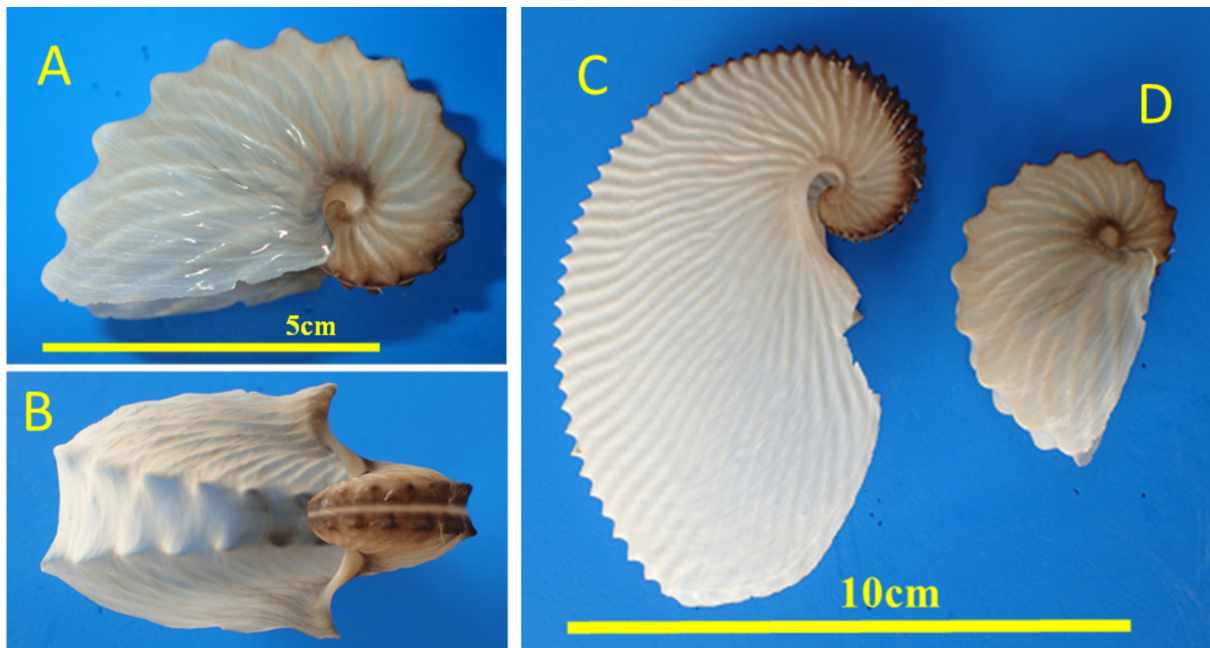


写真3. 木岐漁協の定置網に入網したタコブネの貝殻の写真(A,C,D)と2003年に筆者が島根県沖日本海の底びき網試験操業で採集した有耳型アオイガイの貝殻(C)(2019年1月20日木岐漁協にて撮影)。アオイガイ(C)は放射肋が細かく竜骨との接点は鋭く尖るのに対し、タコブネは放射肋が少なくやや幅が広で、竜骨との接点はやや丸い。

では「なぜ、木岐にタコブネが来遊してきたのか」推測するため2018年10月19日と2018年10月29日前後の海況図(南西東海海況速報)を改めて見直してみました。2018年10月10日に紀伊水道外域中央と室戸岬側から徳島県海域への強い黒潮系暖水の差し込みが、2018年10月18～19日にも黒潮系暖水が室戸岬側から海部沿岸に差し込んでいますが(図1)、その後10月29日まで暖水波及はありません。おそらく、10月10日や10月18～19日の暖水波及の強い流れとその後の暖水の後退の流れに乗ってタコブネが木岐地先まで迷い込んできたのかもしれませんが。木岐漁協から頂いた2018年10月19日の中崎作博さんの小型定置網の漁獲データにはタチウオ209kg、マアジ77kgに加えて暖水性のスマ(標準和名; ヒラソーダ)が42kg入網していたことから暖水波及があったことがわかります。

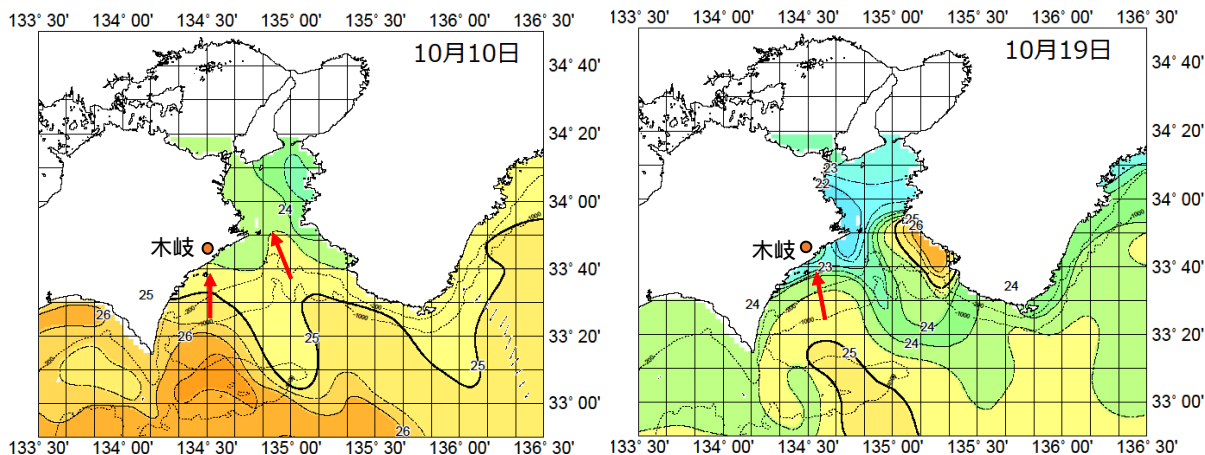


図1. 2018年10月10日と2018年10月19日の南西東海海況速報海況図。

過去のタコブネ入網時の水温は、駿河湾(久保田, 宮下 1973)では表面水温で 20.4 ~ 24.6 , 島根半島沖(櫻井, 河野 2010)では 6 月に 22 ~ 23 の水温で採集されたことが報告されており, 今回の採集事例の 23 ~ 24 (図 1 の海況図より読み取り)とほぼ一致します。

2017 年 8 月から黒潮大蛇行が始まり, その後黒潮そのものや黒潮に由来する黒潮系水の流れが複雑に変化していることから, 海部沿岸への沖合から潮の流れの変化は複雑で, 室戸側からの芸東分枝流による暖水波及の頻度が増加しています。単にタコブネの入網という事象に止まらず, 黒潮が安定的に接岸していた近年に比べて今後も海況, 水産資源や漁業にも変化がみられるかもしれません。

文 献

久保田正, 宮下 明(1973)駿河湾で採集されたアオイガイとタコブネ. 採集と飼育, 35, 128-130.

西村三郎(1969)香港のカイダコ. 採集と飼育, 31, 372-373.

奥谷喬司(2000)日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会, 東京, 1088-1089.

櫻井 剛, 河野重範(2010)2009 年夏に島根半島沖の定置網で混獲されたアオイガイとタコブネ. 島根県立三瓶自然館研究報告, 8, 41-46.